

		パフォーマンスレベル			
観点	アウトカム	ステップ4	ステップ3	ステップ2	ステップ1
生命の尊厳と薬剤師の社会的使命および社会的責任	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命を自覚し、倫理的行動をする。 医療関係法規を遵守して、薬剤師としての責任を自覚する。	患者・生活者に寄り添い、患者・生活者の利益と安全を最優先し、利益を尊重して行動する。医療の中で薬剤師に求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。さらなる患者ケアの向上に向けた自己啓発を行う。	患者・生活者の視点に立つ。日常の学びを振り返り記録し、省察する。医療に従事する者として、自らの体調管理に努める。	生命の尊厳を意識し、他者の人権を尊重する。薬剤師としての義務及び法令を遵守する。患者・生活者のプライバシーを保護する。	薬剤師としての義務及び個人情報保護に関して知識はあるが、日常の中で遵守が不十分である。体調管理が不十分である。

		パフォーマンスレベル			
観点	アウトカム	ステップ4	ステップ3	ステップ2	ステップ1
医薬品の調製	より本格的な医薬品の調製や供給・管理ができる。	アドヒアランスを考慮し、新たに収集した患者情報や薬剤服用の記録等を参照して医薬品の調製を行う。また、薬局で使用されるすべての医薬品やその他のアイテム(医療資器材など)を適切な手順で記録し、保管する。	複雑な処方箋であっても再現性よく、スムーズかつ正確に調剤する。個々の患者の病状や状態を確認し、調剤上の工夫を提案する。また、薬局で使用されるすべての医薬品を適切な手順で記録し、保管する。	一般的な計数・計量調剤や調剤上の工夫等の対応をする。また、医薬品の性質を理解し、薬局の管理手順に従い供給・管理する。	基本的な処方箋の計数・計量調剤を行う。また、医薬品の供給について薬局内の基本的な医薬品の在庫管理をする。
評価の手引き					
		目標1 薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理が、業務の流れを妨げず適切に実践できる。	目標1 患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し、複雑な処方箋の計数・計量調剤が何度も同じように(再現性のある)素早く正確にできる。	目標1 多種多様な処方(一包化・粉碎を含む)についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤ができる。	目標1 単純な処方箋(2~3種類で構成される処方、一包化や粉碎を除く)について計数・計量調剤ができる。
			目標2 医薬品の供給・管理業務の意義や目的をきちんと認識し、業務に適切に反映できる。	目標2 緊急時を含めて、医薬品を適切に供給することを行い、麻薬・向精神薬等についても正しく保管ができる。	目標2 薬局で求められる医薬品の供給および管理ができる。

		パフォーマンスレベル			
観点	アウトカム	ステップ4	ステップ3	ステップ2	ステップ1
処方監査・医療安全	医療安全の視点を考慮し、患者の状態を評価した上で監査ができる。	患者の病状の経過・生活環境・ナラティブを考慮しながら、処方の妥当性を判断する。必要に応じて、医療安全の見地からより適切な処方設計の提案をする。	収集した患者情報（面談・薬歴・お薬手帳等）から得られた情報と薬学的知見を統合して処方内容の監査を行う。必要に応じて、自らの判断で多職種に情報提供を行う。インシデント事例発生後の対応について考察する。	基本的な医薬品情報および患者情報に基づいて、すべての処方箋と調剤薬に関して適切な監査ができ、必要に応じて疑義照会を実践する。またインシデント事例に基づいた防止策の提案をする。	施設内の医療安全管理指針等に基づき、単純な処方箋について記載上の不備を指摘し、疑義照会すべき内容とその手順を把握し指導薬剤師の助言に基づいて実践する。
評価の手引き					
		目標1 患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断できる。	目標1 医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査できる。	目標1 すべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施できる。	目標1 処方箋および調剤薬の監査を行い、リスク回避の対応方法を実践できる。
		目標2 医療安全の見地から適切な処方設計の提案ができる。	目標2 医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有（疑義照会を含む）できる。	目標2 医療安全に配慮した業務を実践できる。	目標2 施設における医療安全の基本を確認し、遵守できる。
			目標3 安全管理指針に従った一連の監査業務を自らの判断で行うことができる。		

		パフォーマンスレベル			
観点	アウトカム	ステップ4	ステップ3	ステップ2	ステップ1
服薬指導	個々の患者の視点に立った服薬指導ができる。	個々の患者の身体状況や生活環境等、情報収集した内容を分析し、その結果から指導に必要な事項を導き出し、その患者に最適な服薬指導を行う。さらに収集した情報を検討して薬歴に記録し、薬物療法に活用する。	過去の記録、最新の医薬品情報および患者との面談から得た情報を基に指導に必要な項目を抽出・分析し、服薬指導時に活用する。	患者と面談し収集した情報やさまざまな情報源から必要な項目を抽出し、さらに服薬指導時に活用する。その結果を適切に記録する。	コミュニケーションの基本に基づき、患者から薬物治療に係る基本的な情報を収集し、薬物治療に係る基本情報を患者に提供する。
評価の手引き					
		目標1 個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明できる。	目標1 過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握できる。	目標1 患者面談で収集した代表的な疾患の薬物治療に関する事項に応じて、資料を用いて説明できる。	目標1 服薬指導を行うために必要な情報を収集できる。
		目標2 治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案できる。	目標2 患者の問題点に対する解決策に基づき、患者が理解できるように指導できる。	目標2 収集した患者や医薬品に関する情報に基づいた服薬指導ができる。	目標2 代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工ができる。
			目標3 病態の変化に応じた処方薬変更の説明と継続的な指導を実践できる。	目標3 活用できた患者情報を他の薬剤師と共有することができる。	目標3 コミュニケーションの基本に基づいた患者対応ができ、指導薬剤師等とのコミュニケーションが取れる。
				目標4 代表的な疾患に関する治療薬の効果および副作用・特に注意すべき事項等を概ね指導できる。	目標4 収集した情報と服薬指導した内容を薬歴等に記入できる。

		パフォーマンスレベル			
観点	アウトカム	ステップ4	ステップ3	ステップ2	ステップ1
処方設計と薬物療法	薬物治療の経過に応じた対応ができる。	薬物治療に関する経過モニタリングを基に患者の状況を総合的に判断して適切な対応ができ、より治療効果の高い処方提案をする。	薬歴や服薬指導を通して、薬物療法の効果を評価し問題点(副作用など)を発見・抽出し、対応策の提案を実践する。また、それらの内容を他の薬剤師と共有するための記録が適切に実施する。	収集した患者情報および処方内容から薬物療法に係る基本的情報を加工し、医薬品情報や治療ガイドラインを参考にして、基本的な処方の想定と実際の処方内容から病態を確認する。	薬物療法の有効性、服薬状況などの基本的な安全性の問題点を認識し、一連の情報を整理する。
評価の手引き					
		目標1 効果不十分や副作用発現時の対応を適切に行うことができる。	目標1 薬物治療上の問題点を正確に抽出・解析し、問題点の対応策を提案できる。	目標1 文書および患者からの情報を抽出し服薬指導に必要な情報に加工できる。	目標1 医薬品に関する文書情報と患者から収集した情報から、患者の治療に問題があると気づくことができる。
		目標2 処方医との治療薬物に関するモニタリング情報の共有や治療薬変更の提案を実践できる。	目標2 薬物治療の効果等に関して継続的な管理が適切にできる。	目標2 代表的な疾患に関して、処方内容が適切かどうか、エビデンスに基づいて評価できる。	目標2 収集した情報の薬物療法への活用を試みる。
		目標3 服薬指導した薬物治療に関する情報を分析し、他の薬剤師と共有できるよう記録できる。			

追加項目【実務実習生としての基本的な態度】

項目名	項目の内容
1 身だしなみ	実務実習生としてふさわしい身だしなみを整えている(髪, 爪, 白衣, 装飾品, 髭・化粧, 香水等)
2 挨拶・返事	挨拶や返事ははっきりと行う
3 言葉遣い	正しい言葉遣いをする(敬語を使える)
4 時間厳守	集合時間や休み時間を厳守する
5 無断欠席・遅刻	無断で欠席・遅刻をしない(連絡は電話で入れる)
6 説明を聞く態度	説明を聞くときは肘をついたり, 足を組んだりしない
7 居眠り	居眠りをしない
8 報告・連絡・相談	必要なときに報告・連絡・相談をする

以下のような形で、各々の項目をいつ薬剤師が指導したかをシステムに記入する。
 薬剤師は指導日と指導項目を入力するのみで、大学が学生の最終評価を行う際に、この指導記録を利用する。
 (記入例)

指導日	指導項目
2017/11/22	1. 身だしなみ
2017/11/23	4. 時間厳守
2017/11/25	4. 時間厳守
2017/12/7	3. 言葉遣い

評価観点毎SBO			評価方法
SBOナンバー			ルーブリック (薬学臨床の基礎)
薬学臨床の基礎			
F-(1)-2-4		4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)	
F-(1)-2-5		5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)	
F-(1)-2-6		6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)	
F-(1)-2-7		7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	
SBOナンバー			ルーブリック (医薬品の調製)
医薬品の調製			
F-(1)-3-13	F1313	13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	
F-(1)-3-14	F1314	14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	
F-(1)-3-15	F1315	15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	
F-(2)-1-2	F2102	2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)	
F-(2)-1-3	F2103	3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)	
F-(2)-1-4	F2104	4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。	
F-(2)-2-10	F2210	10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方箋が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	
F-(2)-2-11	F2211	11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)	
F-(2)-3-9	F2309	9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)	
F-(2)-3-10	F2310	10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)	
F-(2)-3-11	F2311	11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)	
F-(2)-3-12	F2312	12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-3-13	F2313	12) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-3-18	F2318	18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)	
F-(2)-5-9	F2509	9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-5-10	F2510	10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)	
F-(2)-5-12	F2512	12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)	
SBOナンバー			ルーブリック (処方監査・医療安全)
処方監査・医療安全			
F-(1)-3-13	F1313	13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	
F-(1)-3-14	F1314	14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	
F-(1)-3-15	F1315	15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	
F-(2)-1-2	F2102	2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)	
F-(2)-1-3	F2103	3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)	
F-(2)-1-4	F2104	4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。	
F-(2)-2-7	F2207	7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)	
F-(2)-2-9	F2209	9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)	
F-(2)-2-10	F2210	10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方箋が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	
F-(2)-2-11	F2211	11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)	
F-(2)-3-12	F2312	12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-3-13	F2313	13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-3-19	F2319	19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)	
F-(2)-6-8	F2608	8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)	
F-(2)-6-9	F2609	9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。	
F-(2)-6-10	F2610	10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)	
F-(2)-6-11	F2611	11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)	
F-(3)-2-6	F3206	6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)	
F-(3)-4-13	F3413	13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	
SBOナンバー			ルーブリック (服薬指導)
服薬指導			
F-(1)-3-13	F1313	13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	
F-(1)-3-14	F1314	14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	
F-(1)-3-15	F1315	15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-9	F2409	9) 患者・薬局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)	
F-(2)-4-10	F2410	10) 患者・薬局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-11	F2411	11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)	
F-(2)-4-12	F2412	12) 患者・薬局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-13	F2413	13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-14	F2414	14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)	
F-(2)-4-15	F2415	15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	
F-(3)-1-5	F3105	5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	
F-(3)-1-6	F3106	6) 患者・薬局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)	
F-(3)-2-2	F3202	2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)	
F-(3)-2-3	F3203	3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)	
F-(3)-2-4	F3204	4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)	
F-(3)-2-5	F3205	5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)	
F-(3)-2-6	F3206	6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)	
F-(3)-3-7	F3307	7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	
F-(3)-3-9	F3309	9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)	

F-(3)-3-12	F3312	12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。 (知識・態度)	
F-(3)-3-13	F3313	13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。	
F-(3)-4-4	F3404	4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。 (知識・態度)	
F-(3)-4-7	F3407	7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	
F-(3)-4-8	F3408	8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	
F-(3)-4-9	F3409	9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	
F-(3)-4-11	F3411	11) 報告に必要な要素(5WIH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。 (技能)	
F-(3)-4-12	F3412	12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)	
F-(3)-4-13	F3413	13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	
SBOナンバー			
処方設計と薬物療法			
F-(1)-3-13	F1313	13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。	
F-(1)-3-14	F1314	14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。	
F-(1)-3-15	F1315	15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)	
F-(2)-2-10	F2210	10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)	
F-(2)-2-11	F2211	11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)	
F-(2)-4-9	F2409	9) 患者・薬局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)	
F-(2)-4-11	F2411	11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)	
F-(2)-4-12	F2412	12) 患者・薬局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-13	F2413	13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)	
F-(2)-4-15	F2415	15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	
F-(3)-2-3	F3203	3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。 (知識・技能)	
F-(3)-2-4	F3204	4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)	
F-(3)-2-5	F3205	5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)	
F-(3)-3-7	F3307	7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	
F-(3)-3-9	F3309	9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。 (知識・態度)	
F-(3)-3-12	F3312	12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。 (知識・態度)	
F-(3)-3-13	F3313	13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。	
F-(3)-4-4	F3404	4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。 (知識・態度)	
F-(3)-4-7	F3407	7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	
F-(3)-4-8	F3408	8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	
F-(3)-4-9	F3409	9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	
F-(3)-4-11	F3411	11) 報告に必要な要素(5WIH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。 (技能)	
F-(3)-4-12	F3412	12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)	
F-(3)-4-13	F3413	13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)	
SBOナンバー			
地域におけるチーム医療			
F-(4)-2-3	F4203	3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)	
F-(4)-2-4	F4204	4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)	
SBOナンバー			
在宅医療・介護への参画			
F-(5)-1-4	F5104	4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)	
F-(5)-1-5	F5105	5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。 (知識・態度)	
F-(5)-1-6	F5106	6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)	
SBOナンバー			
地域保健への参画			
F-(5)-2-3	F5203	3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)	
F-(5)-2-4	F5204	4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)	
SBOナンバー			
プライマリ・ケア、セルフメディケーションの実践			
F-(5)-3-5	F5305	5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)	
F-(5)-3-6	F5306	6) 薬局から収集した情報や身体所見などに基づき、薬局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)	
F-(5)-3-7	F5307	7) 薬局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。 (知識・態度)	
F-(5)-3-8	F5308	8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を薬局者に適切に判りやすく説明できる。 (知識・態度)	
F-(5)-3-9	F5309	9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)	
SBOナンバー			
災害時医療と薬剤師			
F-(5)-4-2	F5402	2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。	
F-(5)-4-3	F5403	3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)	

ルーブリック
(処方設計と薬物療法)

実務実習記録による評価